

CSO アワード 2018「大阪市長賞」受賞記念

「NPO 法人にしよどにこネット」の皆さんと西淀川区長・市民局長との座談会

(平成 30 年 12 月 27 日 西淀川区役所にて)



(写真上段左から) NPO法人にしよどにこネット 長崎さん、代表理事 福田さん、西淀川区塩屋区長、谷川市民局長、NPO法人にしよどにこネット中川さん

(写真下段左から) NPO法人にしよどにこネット加藤さん、いのちのふれ合い授業プロジェクトリーダー 藤本さん

CSOアワード2018 大阪市長賞は、「NPO法人にしよどにこネット」のいのちのふれ合い授業プロジェクトが受賞しました！
「いのちのふれ合い授業」とは、「いのちの尊さ」「人と人とのつながりの大切さ」「家族のつながりの大切さ」を伝えることを目的として、区内の小、中、高生を対象に、その地域の妊婦さんや赤ちゃん親子と一緒に出向き交流する授業です。

まずは、いのちのふれ合い授業が始まったきっかけを教えてください！

【にしよどにこネット：福田氏】

にしよどにこネットでは、いじめや自殺、虐待等の問題が表面化する中で、学校・地域・家族が繋がることでいのちの大切さを伝えたい！と思い、いろいろな取組をすすめていました。



以前、西淀川区内の小学校では、少し学級崩壊が続いていた時代がありました。

そのような中、学校へいのちに関する単元の授業に、赤ちゃん親子や妊婦さんと参加させてほしいと提案したのがきっかけです。

にしよどにこネットは、「人と人がつながる」ということをテーマにしており、その一環としてこの交流授業を続けています。

—この授業を実施する上で、大切にしていることは何ですか？

【にしよどにこネット：長崎氏】

できるだけレクチャーや私たちの言葉を少なくして、妊婦さんや赤ちゃん親子とのふれあいを主体とすることで、また、妊婦さんの言葉から学んでもらえるよう、「いのちのふれ合い授業」を実施しています。

【谷川市民局長】

教えるのではなく、感じてもらう、ということが、授業の本質ということですね。

【にしよどにこネット：長崎氏】

そうです。

大人の思いを言葉で伝えるんじゃなくて、こどもたちに自ら気づいてもらいたいんです。

私たちが母親なので、「いのちの大切さ」を私たちの言葉で伝えたくります。以前は、学校の先生も「いのちってこんなに大切なんだよ。」「あなたたちは、こんなに大切なんだよ。」ということをもとめとして伝えていました。しかし、「こどもたちは自ら気づく力を持っていて、それを大人の言葉で邪魔してはいけない。」ということに気づいたんです。なので、今は先生が「みなさんわかった？いのちっていうのは、大切でしょ。」ってまとめ

てしまわないように、打ち合わせも大切にしています。

【塩屋区長】

本当の意味での総合学習は、こういうものなのかもしれませんね。

【にしよどにこネット:長崎氏】

以前は、先生がまとめた言葉と全く同じ言葉を感想として書いている生徒もいました。

【谷川市民局長】

忖度しているんですね(笑)。でも、本当に、教えられるのではなく、こども達に感じてほしいですね。そして、このように「感じる」ということは、教育の本質につながる話ですね。

この授業を受けた生徒の皆さんの反応はいかがですか。

【にしよどにこネット:長崎氏】

授業では、恥ずかしそうにお腹を触ってくれる子や、赤ちゃんが動く(胎動を感じる)までじっと待っている子、いろいろな子がいます。その中で、一人の男の子が手の甲でお腹を触ったことを今でも覚えています。授業の最初に、「妊婦さんのお腹はこうやって(手のひらで優しく)触ってね。」とお願いするのですが、その子は手の甲で触ってくれたので、「お腹触るの嫌なのかな?」と思いました。男の子に聞いてみると、「僕の手が冷たいから、赤ちゃん冷たくなったら困るから。」と言われて、泣きそうになりました。こどもたちは、大人が教えなくても、感覚でお腹の中の赤ちゃんのことをとても大切に感じているのだ、ということを感じさせてくれた私の宝物のエピソードです。

もう一つ、これは学校の先生も驚いておられるのですが、暴力的な行動をとる子がいないんです。学校の先生は心配されていることもありますが、どの子もみんなおなかを触る時はとても優しい顔になるんです。

【谷川市民局長】

そうなんです。人間の本質的なものを感じますね。

この授業を長く続けられていることで、取組に変化はありましたか?

【にしよどにこネット:長崎氏】

実は、最初に授業を受けた子は、もう20代半ばになっています。また、妊婦さんとして参加していた方のこどもは、小学生になっています。

その子たちが小学校で授業を受けるときは、授業に参加していたお母さんのお腹を生徒が触っている写真を渡しています。そうやって、どんどんこの取組が繋がってきています。

【谷川市民局長】

この取組が、こども(赤ちゃん)として参加する、授業を受ける側として参加する、ママとして参加するということができたら、とても素晴らしいと思います。

「実は私も赤ちゃんの時にこの授業に参加したんですよ。」というママが出てくれば、良い連鎖につながると考えています。ぜひ、続けて広げていってほしいと思います。

スタッフの皆さんがいのちのふれ合い授業に参加されたきっかけは何ですか。また、参加して、どのようなことを感じたのか、教えてください。

【にしよどにこネット:福田氏】

私は2002年の佃南小学校で、赤ちゃんや妊婦さんと交流しようという話が小学校の保護者(NPO法人にしよどにこネット前代表)からあり、そこで妊婦さんなどの送迎係として初めて参加しました。

この授業は、「人と人とのつながり」や「いのちの大切さ」を感じてもらうことを大切にしていますが、当時、この「いのちのふれ合い授業」に参加したお子さんが、現在、助産師として仕事をしていた、「色々な子どもたちが感じたことがつながっているんだ！素敵だな！」とあって、ずっと授業に関わっています。

【にしよどこネット：藤本氏】

私は、上のこどもが1歳の時、赤ちゃん親子としてこの授業に初めて参加しました。

私自身、助産師として働いている中で、中絶の介助をすることがあります。性教育の大切さを感じながらも、「子どもたちに性教育を伝えることは、私には難しい」とずっと諦めていましたが、この授業は、そういったハードルを下げてくれるものでした。

授業では、赤ちゃんや妊婦さんのお腹を触っている子どもたちの目がキラキラしていて、この授業は子どもたちにとっても大切なことを伝えているんだと感じ、参加しています。



【にしよどこネット：長崎氏】

私がこの授業に初めて関わったのは、12年程前です。

こころの子育てネット西淀川(現：NPO法人にしよどこネット)で、佃南小学校でこの授業をやっていると聞き、見学に行き、「ぜひ、自分のこどもの学校でやりたい！」とあって、学校に直談判しました。その時教頭先生が、「他の学校でもやったことがある」と言われ、自分のこどもの学校(出来島小学校)でも実施できることになりました。

佃南小学校では、授業の主体は、養護教諭の先生でしたが、出来島小学校では、授業について「にしよどこネットに一任する！」とあっていただき、初年度は助産師さんに手伝ってもらいながら行い、その翌年からは、自分たちで授業を実施するようになりました。今は、授業のプログラムがありますが、私たちは、そのプログラムを作成するところから実施しました。子どもたちに何を伝えたいのか、どうやったら伝わるのか、ということ話し合い、こっちがいんじゃないか、これを伝えた方がいいんじゃないか、とみんなで話し合いながらプログラムを作り上げました。その時のスタッフのこどもさんが、今、助産師になるために大学に通っているそうです。

【にしよどこネット：中川氏】

私が参加したきっかけは、今5歳となった長女の出産です。

結婚して西淀川区に来ましたが、周囲の人とのつながりが全くありませんでした。その際、助産師さんとして藤本さん(いのちのふれ合い授業プロジェクトリーダー)が来てくれて、「にっこりルーム」のことなどを教えてくれました。

「にっこりルーム」に遊びに行かせてもらおうと、ちょうどこの授業をしている時期で、「授業に行ってみない？」と誘われました。行ってみると、すごく楽しくて、「自分が小学校の時にこんな授業があったらよかった！」と思いました。とてもあったかい授業なので、もっと広まれば良いと思っています。

【にしよどこネット：加藤氏】

私も結婚前に西淀川区に引っ越してきて、周りに知り合いがらず、とても寂しい思いをしていました。地域の人とのつながりがほしいと思っていて、他の地域で「いのちのふれ合い授業」をやっていると聞いて、すごくうらやましいと感じていました。

そんな時、西淀川区の大和田であった、こどもの誕生日会でこの「いのちのふれ合い授業」を知ることができました。

こどもは大きくなっていたので、「赤ちゃん親子は難しいけど、一緒にどう？」と誘っていただきました。授業での子どもたちの反応はその度に違っていますが、みなさんがすごく楽しみにしてくれているということが毎回伝わってきます。

この授業の魅力は、その地域のお母さんが携わっていることだと感じています。自分のこどもが小学校に入学したときにはもちろんいのちの大切さを伝えたいと思います。また、いのちのことについてこんなに身近に感じられる地域は他にないな、とも思っています。ここ(西淀川区)に住んだことが嬉しいし、たまたま住んだ地域だったけれども、これからもずっと住んでいきたいと思っています。

【塩屋区長】

この授業が良いものだ、という気持ちがあるので、「多くの人が実施したい！」と思ってつながりが広がっているのだと思います。

今までのお話を聞いて、本当にたくさんの人たちと協力し、話し合いながら進めてこられたことが分かりました。ともすれば道が分かれてしまうこともあると思いますが、これだけ協力して実施されているのは、本当にすごいですね。

授業を受けた生徒の皆さんだけでなく、スタッフ同士のつながりも、とても強いように感じます。

【にしよどにこネット:福田氏】

そうですね。ある学校での授業開催日が決まったら、「私も参加しますよー！」と応援合っています。それに、初めての学校の授業の開催が決まったら、「出産祝いか！」という程、地域の担当など関係なくスタッフみんなで大喜びしています。

【塩屋区長】

スタッフとして入っていきやすい雰囲気が続いていけば素敵ですね。

【にしよどにこネット:中川氏】

私が「にっこりルーム」に行った時も、お家みたいな感じでした。私がこどもを3人産めたのも、「にっこりルーム」があったからだと思います。それまでは、スーパーに行っても、挨拶する友達と会うこともありませんでした。ここのスタッフとのつながりに救われました。

【にしよどにこネット:長崎氏】

これまで参加してくれた妊婦さんも、仮に授業に参加できなかったとしても、「妊婦さんを探そうか？」と言ってくれたり、教材を作ってくれたりしています。

【谷川市民局長】

多くの人たちが、自分ができることに参加するというのが、キーになっていると感じました。参加することへのハードルを上げすぎないことが良いのですね。

【にしよどにこネット:福田氏】

そうですね。また、妊婦さんや赤ちゃん親子さんをお誘いするのも、いきなり案内チラシをお渡しするだけでは難しいと思っています。「授業に行ってもいいかな？」と思う関係性を作ることは、非常に大切だと思っています。

私は、運営している子育てひろば何度かお会いする中で信頼関係が築けてきたと思ったときに、話をするようにしています。



【塩屋区長】

確かに、「にっこりルームに行ったら、誘われるようになるよ！」となったら困るよね(笑)。関係性ができることが大切ですね。

【にしよどにこネット:長崎氏】

そうですね。

皆さん、地域のつながりからこの授業に参加されたんですね。この授業を通じて、地域や学校とのつながりもさらに密になったんでしょうか？

【にしよどにこネット:福田氏】

例えば、ある時には、地域の方から「うちの孫生まれてん！」と伺った際、「今度、授業にお孫さん来てくれませんか？」とお誘いしたら、「うちの孫、ボランティアデビューさせてもらえんの！」と言われて、実際に参加してくれました。生後6か月で地域デビューを果たしたことを、とても喜んでくれました。

【にしよどにこネット:加藤氏】

私も、この授業を通じて、地域もとても身近になったと感じています。

大晦日の夜に親子3人で歩いていたら、いのちのふれあい授業を受けた子がいて、私が受け持っていたグループではなかったんですけど、「(いのちのふれあい授業の時)いたやんね？」と言われ、地域とつながることができたと感じました。

【塩屋区長】

地域の方とのつながりもとても密なのですね。この授業は、自分の近所の方が来てくれる、ということで、身近に感じる事ができ、地域をつなげていっているのですね。

【にしよどにこネット:長崎氏】

人と人とのつながりがある、これが地域力を高めていくと感じています。妊婦さん自身が、地域に入っていける、ということが大切だと感じています。授業を実施する中で、地域とのつながりが生まれ、子どもたちの下校時に帰る姿を愛おしく感じることもあると思います。そういったことが地域に根付くよう、この授業がゆるく、長く続いていければ良いと思っています。

【谷川市民局長】

つながっていくことが地域の力になっているということだと思います。初めて来た土地で、「こどもを産むときどうしようか」と色々悩むこともあるでしょう。しかし、みなさんのようなネットワークがあり、その素晴らしさが伝われば、そのような悩みも解消されるんじゃないかな。

【にしよどにこネット:加藤氏】

学校への相談などもとてもやすくなりました。

うちの子、アレルギーがあるんです。小学校にあがる時、「給食など、どうなるんだろう？」と不安でした。御幣島小学校の地域のスタッフさんに「小学校では(その辺りの対応って)どうですか？」という風に聞いてみると、教頭先生につないでくれて直接いろいろとお話を聞かせてもらえました。

入学前に事前に知れて、ずっともやもやして生活していたから、スッキリした気持ちになりました。この取組を通じて、学校の状況を知れたりすることもあります。

この授業を続けていく中で、子どもが小学校に入学することをとても楽しみに感じています。他のスタッフさんから、「今日の授業にはうちのこどもがいるねん！」と言われると、「どの子、どの子!？」となったり、この授業を続けていくと色々な思いが生まれて、感極まる時もあります。

【谷川市民局長】

学校というものが、より身近なものになるということですね。

まだ実施されていない西淀川区内の地域や、他区で同様の取組を実施するには、どうしたら良いのでしょうか。

【にしよどこネット:福田氏】

西淀川区の姫里小学校の方から、「何で(うちの小学校は)授業がないの?」と聞かれたことがありますが、私たちが自分から各学校に授業をさせてください!と言ったことはありません。その地域の保護者の方が「うちの学校でやりたい」と声をあげ、学校に説明できる日が決まれば、そのお手伝いを私たちがさせていただいています。

また、転勤された先生からも、赴任先の学校でも、同様にこの授業を実施したい!と言われることもありますが、「学校と一緒にこの授業をやりたい!という地域の方がいらっしゃったら、チームの作り方や授業導入のノウハウなどはお伝えすることができます。」とお返事しています。

去年は、松原市の子育て団体から「やってみただ、あまり上手くいかないこともあった。教えてほしい!」と相談があり、講演をさせていただきました。その後も授業を進める中で質問があれば、「西淀川区では、こうしてるよ。」と実際に工夫している事などをお伝えしています。

私たちは「その地域の人たちができるように、養成講座みたいにやってくれたら、収入源にもなるし、良いんじゃないの?」と言われることもありますが、この授業は、やり方を真似たところで、授業が定着するものではないと考えています。続けていくには、やはり、その授業の中で体験することがあり、その地域に合わせた授業を実施することが大切だと感じています。

【谷川市民局長】

先ほど、異動した学校の先生からも、「うちの学校でも!」と言われていましたが、学校側からもこの授業が浸透するよう、支援をする必要があるのではないかなと感じます。教育上、有益なものだと考えている先生も多いんじゃないでしょうか。

【塩屋区長】

また、学校の先生とコラボすることで、もっと深い学びにつなげることもできるのではないのでしょうか。

【にしよどこネット:長崎氏】

学校の先生とのつながりも本当に大切と感じています。先生が変わった途端に「その年度からやりません。」ということもあります。この授業を学校に根付かせる、ということも課題だと感じています。できる限り、本当に授業の素晴らしさを感じてもらえるよう、学校の先生にも「授業を一回見てほしい。」と言っています。

また、予算の確保の仕方などもばらばらで、「お金がかかるなら、ちょっといいわ。」と言われるようなこともあります。

【にしよどこネット:福田氏】

最初は、授業料をいただいていたんですが、大学の教授から「授業を持続可能なものにするなら、かかる費用についてはきちんともらった方が良い。」と言われ、授業として、学校に予算を確保してもらおうようにすることも、事務局でも必要だと考えました。学校によって、費用の出处?は違います。

参観形式で保護者が見に来られる場合は、保護者の学びにもなるため、生涯学習の予算から出ていることもあります。また、別の地域でははぐみネットの取組として授業を実施しているところもあります。

【谷川市民局長】

学校として「外部の講師に授業のカリキュラムをやってもらう。」というような整理がされれば、必要な経費を加味して費用を支出するということは当然のことになると思います。

この活動を持続的に続けていくということを考えれば、事業性もきちっと見ていかれる必要があるのではないかと、そういうことも含めて進めていかれないと、どこかで我慢などが必要となり、続けることが難しくなるかもしれませんね。

【塩屋区長】

必要な費用があるのであれば、やっぱり、きちっと考える必要がありますよね。

【にしよどにこネット:福田氏】

松原市では、ライオンズクラブさんが授業教材を寄贈してくれていました。そういう企業さんがいらっしやると活動も広まります。その地域にある資源をいかに使い、つながっていくかということですね。新規で実施する学校には、どうしても「ボランティア団体なのに有料なのか。」という最初の壁があります。

【塩屋区長】

学校の中で、カリキュラムの認識の問題があるのかなと思います。深い学びのための授業として外部委託をして実施している、という認識があるかどうかだと思います。

【谷川市民局長】

また、先生間の情報共有も非常に重要ですね。

【にしよどにこネット:福田】

学校の方から、「ぜひ、来てください！」ということもあれば、授業のカリキュラムがあるので、なかなか実施が難しいという場合もあります。

【谷川市民局長】

こういう活動があることを教員同士で共有する。そうすると、教員のネットワークと、にしよどにこネットさんのネットワークとの両輪で広がっていくと思います。

できあがった授業内容以上に、ここまでもっていくことのしんどさというものが、今のお話を伺ってよく分かりました。

教育では色々な課題がありますが、いのちの尊さをどう伝えるか、実体験をもとに授業をすることは、教育として素晴らしいことだと思います。最初は気づかれていなかったと思いますが、これだけ多くの方に支持されているということは、学校側にもニーズがあると思います。

【塩屋区長】

西淀川区区内でも、広がりは大きくなっていると思いますが、すべての校区で実施できれば素晴らしいですね。この感動を、さらに西淀川区区内に広げていきたいですね。